



利田付近の露出している凝灰岩



荻野石(青石)の石切場



塩坪の河岸段丘

高郷村付近の地質時代の様子

100万年	湖	グリー	・火山活動	・旧石器時代の遺跡発掘
200万年			・会津盆地形成	・5~10万年の周期でくりかえされた氷河が融けていく。
500万年			・磐梯山系陸上火山	・生物が爆発的に分化。
	海	ンタ	・越後山脈が隆起	・マンモスが栄える。
1000万年			塩坪層	・氷河が広がる。
			漆塗層	・火山活動が活発化。
1500万年	フ	変	荻野層	・海が退いていく。
			利田層	・気候はしだいに寒冷化する。
2億年			飯豊山地の海底堆積層形成(会津の古成層)	・暖海が会津に侵入する。
5億年			・はげしい造山運動。	
30億年			・哺乳類が現われる。	
45億年			・恐竜やアンモナイトが栄えた時代。	
			・海草や魚類が上陸する。	
			・海中で生命発生。	
			・地球の誕生。	

グ海に生息し、乱獲によって絶滅

のは、一七〇〇年代までペーリン

ゾウの近縁。高郷村で発掘された

魚のモデル、ジュゴンやマナティ

ーなどの仲間、クジラ類に似て

は、一七〇〇年代までペーリン

ゾウの近縁。高郷村で発掘された

魚のモデル、ジュゴンやマナティ

ーなどの仲間、クジラ類に似て

は、一七〇〇年代までペーリン

ゾウの近縁。高郷村で発掘された

魚のモデル、ジュゴンやマナティ

ーなどの仲間、クジラ類に似て

は、一七〇〇年代までペーリン

ゾウの近縁。高郷村で発掘された

魚のモデル、ジュゴンやマナティ

ーなどの仲間、クジラ類に似て

は、一七〇〇年代までペーリン

ゾウの近縁。高郷村で発掘された

魚のモデル、ジュゴンやマナティ

ーなどの仲間、クジラ類に似て

は、一七〇〇年代までペーリン

ゾウの近縁。高郷村で発掘された

魚のモデル、ジュゴンやマナティ

ーなどの仲間、クジラ類に似て

「世界でも珍しい化石発掘!!
アイツタカサトカイギウ」



「たかさと」の個性は、 太古の海の化石から。

した大海牛の「ステラーカイギウ」の先祖にあたる、太古の生物の化石と判明しました。

頭蓋化石が完全な形で発見されるのは珍しく、学術的にも非常に重要な特徴を秘めています。

塩坪周辺は化石の名所で、昭和五五年(一九八〇)にその保存調査中に標本を採取。古脊椎動物学会で新種「アイツタカサトカイギウ」と命名され、世界中からスポットを浴びるようになりました。

列島誕生の謎を秘めた
海の化石と青石の地層たち。

クジラやサメ、アシカなど海に棲む哺乳動物のほか、巻貝や二枚貝などの化石が大量に埋れる塩坪層は、蛤石(はまぐりいし)浜栗石(の産地として、古くから世間に知られており、その貝殻の化石を砕いて飲用の粉薬とし、装飾塗料の胡粉に使われていました。

塩坪周辺の大地は浅い海底の砂岩層で、その深さは一〇〇メートルもあり、下半分が魅惑の貝殻ま

じり層。
阿賀川流域の荻野駅周辺は「青石」の産地として知られ、なんと深さ三〇〇メートルもの緑色凝灰岩層で占められているようです。



学名は「ドシシーレン・タカサデンシス」。体長は約3.7mと推定される。カイギウの仲間は5500万年前から海に生息するようになった草食のほ乳動物で、高郷村で発掘された化石は、今から800万年前の種のようなです。
アイツタカサトカイギウの化石標本

会津地方には、この海底の地層である緑色凝灰岩「グリーンタフ」が広く分布しております。

語っています。

岩は海底火山の噴出物が沈殿したもの、緑は海藻の色、凝灰ものは、恐竜やアンモナイトが栄えたのち、激しい火山活動に伴う隆起や降沈をくり返した、日本列島誕生の頃の数千万年、数億年の壮大なドラマの一コマを物語っています。

層は今から五百万年〜千五百万年の昔に堆積したもので、緑は海藻の色、凝灰岩は海底火山の噴出物が沈殿したもの、緑は海藻の色、凝灰ものは、恐竜やアンモナイトが栄えたのち、激しい火山活動に伴う隆起や降沈をくり返した、日本列島誕生の頃の数千万年、数億年の壮大なドラマの一コマを物語っています。

郷土の宝物たちに「高郷らしさ」を学ぶ。

二十一世紀は「郷土らしさ」を愛しむ時代。

わたくしたちは、地球博物誌の貴重な資料とのめぐりあわせを大切に、太古の生命が眠る郷土の大地の温もりを肌で感じとりながら「進化論」という偉大な思想を育んだ心豊かな地質時代の英知に思いを馳せ、未来を拓く郷土づくりの多彩な知恵を学びます。